



## 電話の下の物体

### ■ 星 マリナ

父・星新一が亡くなって20年。そのあいだ、実家のリビングの電話の下にずっと置いてあるものがあるのです。それは父が買ってそして挫折したワープロ、ミノルタのワープロエース MWP80 です。

今回この原稿を書くにあたり、はじめてそのワープロをとりだしてみました。大きさは40×40×20センチくらい。結構重いです。手前をパカッとあけると、そのフタの裏がキーボードになっています。そして上をあけると、そこには内蔵プリンターが。おおっ。

思えばワープロを買うようにすすめたのは私だったのです。父は60代で私は20代。当時 NEC 文豪 mini でサーフィン関係の原稿書きをしていた私は、「すっごい便利！ まちがえでも簡単になおせるし。どこにいても印刷できるんだよー。パパも買ったらしいのに」と大さわざ。けれど父がワープロを購入したのは私がハワイに移住したあとだったので、父が使っているところを一度も見たことがなく、あとになって電話の下の物体に気づき「ママ、あれ、なーに？」「ああ、あれはパパのワープロよ。ちょっとしか使わないでずっとあそこに置いてあるのよ」という会話でその存在を知ったのです。そうか。私が日本にいたら使い方を教えてあげられたのに。悪かったな……。父に対して悪かったと思うことはたくさんあるけれど、これもそのひとつなのでした。

試しにコンセントをさし電源を入れると。あ、作動した。まさか、まだ使えるとは！ 文書の作成ができるとモニターが告げている。キーボードを打ってみる。「てちかちとに」。ん？

■ 星 マリナ  
星ライブラリ代表

SF 作家・星新一の次女。青山学院大学卒。星新一公式サイトを日本語と英語で運営し、星作品の英訳電子書籍とオーディオブックを世界の Kindle Store や iTunes Store で販売中。息子はプログラマーで、娘はカイトサーファー。



ひらがな入力だった。購入時のことをご存知の高齋正さんのお話では、このワープロは画面に縦書きで表示され、父はローマ字で入力していたということだったけれど、使わないあいだに初期化されて横書き&ひらがな入力になってしまったのだろうか？ 父は縦書きにとても強い思い入れがあったのです。

父の書いたものはいったいどこに保存されているのだろうか、しばし考えて気がついた。フロッピーディスクの挿入口に。そうだった。フロッピーディスクというものがあったのだ。別の場所に保管されていたワープロ関係の袋のなかから、サンプルディスクをとりだして挿入してみたけれど奥まで入らない。そして父が使っていたディスクは見当たらない。かわりになぜかその袋に入っていたのは原稿用紙でした。もしかすると原稿用紙に下書きしてから打っていたのか？

母の「すぐに挫折したから」という言葉を信じれば、たとえ父のフロッピーディスクが見つかったとしても、そこに書きかけの小説やエッセイが入っていることはなさそうです。このワープロももう捨ててもいいのですけれど、もうちょっと置いておこうかな。なんとなく。4半世紀の時をさかのぼり、父が元気だった頃にもどれたのはちょっとたのしかったのです。「もういいよ」という父の横で「もう1回やってみて。簡単だから！」という自分が見えたような気がしたのです。

